

令和5年度 第1回仙台市感染症対策協議会

1. 開催日時 令和5年11月6日(月) 19時から

2. 開催場所 仙台市役所本庁舎8階 第1委員会室

3. 出席委員(7名 50音順 敬称略)

| | |
|-----------|--|
| 委員 青柳 哲史 | 東北大学病院医学系研究科 感染症態学分野 教授(総合感染症科科長) |
| 委員 安藤 健二郎 | 一般社団法人 仙台市医師会 会長 |
| 委員 遠藤 史郎 | 東北医科薬科大学医学部感染症学教室 教授(感染症内科科長・感染制御部部長) |
| 委員 男澤 貴子 | 公益社団法人 仙台市薬剤師会 常務理事 |
| 委員 狩野 クラ子 | 公益社団法人 宮城県看護協会 専務理事 |
| 委員 八田 益充 | 仙台市立病院 診療部 感染症内科 科部長 感染対策室室長 |
| 委員 花岡 弘二 | 一般社団法人 仙台歯科医師会 常務理事 |

4. オブザーバー

赤間 正行 宮城県保健福祉部疾病・感染症対策課長

5. 事務局

| | |
|--------|-------------------------------|
| 林 敬 | 健康福祉局理事(保健医療担当) (兼)保健所長 |
| 小椋 純一郎 | 健康福祉局保健衛生部長 |
| 戸井田 和弘 | 健康福祉局衛生研究所長 |
| 小松 利充 | 健康福祉局保健所副所長 |
| 星 努 | 健康福祉局保健所調整担当課長 |
| 小笠原 誠 | 健康福祉局新型コロナウイルスワクチン接種推進室総括担当課長 |
| 佐々木 太郎 | 健康福祉局保健衛生部医療政策課長 |
| 佐野 ゆり | 健康福祉局保健衛生部健康政策課長 |
| 加藤 雅幸 | 健康福祉局保健所健康安全課長 |
| 鈴木 花津 | 健康福祉局保健所感染症対策室長 |
| 齋藤 卓哉 | 健康福祉局保健所生活衛生課長 |
| 毛利 淳子 | 健康福祉局衛生研究所微生物課長 |
| 高橋 慶太 | 危機管理局危機管理部危機管理課長 |

大須賀 淳 危機管理局危機管理部新型コロナウイルス感染症対策調整担当課長
 佐々木 隆広 消防局警防部救急課長
 加藤 誠 教育局総務企画部健康教育課長

6. 内容

1) 開会

2) 所長挨拶

3) 会長選出

会長：安藤 健二郎委員 副会長：青柳 哲史委員（了承）

4) 会長挨拶

安藤会長より挨拶

5) 議題

・議事録署名人の指名

遠藤 史郎委員を指名（了承）

・協議

以下のとおり

| 発言者 | 議事 |
|---------------|--|
| 会長 | それでは議題（2）に入ります。仙台市感染症予防計画（中間案素案）について事務局より説明をお願いします。 |
| 事務局 （鈴木室長） | 【資料に基づき説明】 |
| 会長 | ありがとうございます。保健所設置市がこのような仕組みを整えなければいけないとのことで説明をいただきました。委員の皆様方から質問や意見を自由に頂戴します。 感染症の特性や規模が不明な中、どのように対処するかは予め決め難いですが、国としては新型コロナの経験を基にある程度の体制を整える方針かと思います。 まず、感染症を診るお立場から、遠藤委員からコメントをいただければと思います。 |
| 遠藤委員 | 資料5の中で、国が想定するとおり第6波を参考にされているということでした。規模としては第7波や第8波の方が多いです。第6波を1つの基準としたのは、第7波、第8波の規模では初期対応ではないため、第6波を想定したということでしょうか。 |
| 事務局 （鈴木室長） | おっしゃる通り、国はより規模が大きい第7波、第8波ではなく第6波を想定しています。仙台市におきましても、第6波である令和4年1月から6月を想定し計画しております。 |

| | |
|---------------|---|
| 会長 | 青柳先生お願いします。 |
| 副会長 (青柳委員) | <p>ありがとうございます。</p> <p>平時からの取り組みは非常に重要だと思います。突発的な出来事が起きた時に、いかに迅速に体制を拡大できるかが目標です。仙台市、宮城県とも同じ課題を抱えていらっしゃるかと思います。初期の対応とパンデミックへの対応、2段階で対応することが大切です。</p> <p>数値目標は第6波を想定しておりますが、初期は患者が少数であっても世の中が混乱します。そのような中でも、将来を見据えて対応できる体制をこの計画で構築できればと考えておりました。</p> <p>私としましても、仙台市、宮城県とともに同じビジョンに向かっていければと考えております。</p> |
| 会長 | 青柳先生と遠藤先生に質問いたします。これから我々はどのような感染症を念頭に対策するとよいでしょうか。WHOは今後注意すべき感染症をリストアップしています。具体的に注意すべきはどこですか。青柳先生どうですか。 |
| 副会長 (青柳委員) | <p>呼吸器感染症は人類にとって非常にインパクトがあります。このコロナに限らず、H5N1 鳥インフルエンザに始まるインフルエンザは、人類への大きな脅威です。2009年にパンデミックが起きましたが、インフルエンザは今後も進化を遂げていくと考えます。</p> <p>SARS や MERS に代表されるように、大体10年周期で新しいウイルスが出現します。高病原性のものは、ある程度ローカルに封じ込めることができます。それが人間社会にうまく入り込むウイルスになると、今回のような出来事が起こります。</p> <p>我々は普段から感染症に接していますが、新しい感染症に対してはナイーブだと分かってきました。今後、新たな呼吸器感染症が発生するかどうかの問題となります。</p> <p>先ほど説明がありましたが、地球の気候変動と共に蚊媒介感染症といった感染症も注意深く見ていくことになるかもしれません。</p> |
| 会長 | ありがとうございます。遠藤先生いかがですか。 |
| 遠藤委員 | <p>この後どんな感染症が流行るか、明確に言えればよいのですが私自身明確には言えません。</p> <p>ただ、このコロナの4年間、私たちは接触感染対策、飛沫感染対策、エアロゾル感染^{※1}対策を一生懸命やってきました。接触感染は、皆さん手を洗うことでだいぶ減ってきました。しかし、エアロゾル感染は今でも制御できておらず、多くの施設が困っていると思います。</p> <p>高齢者施設や障害者施設等の入居者の中には、自身をうまくコントロ</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>ールできない方もいらっしゃいます。施設内での換気、エアロゾル対策をどう行うかは、今後の大きな課題といえます。</p> <p>今後、エアロゾル対策を強化できると、どのような感染症が発生したとしてもある程度対応できるかと思えます。</p> <p>※1 エアロゾル、エアロゾル感染…エアロゾルは、空中に浮遊する粒子をいい、エアロゾル感染とはウイルスを含むエアロゾルの吸引により感染することをいう。（「感染拡大防止のための効果的な換気について」（新型コロナウイルス感染症対策分科会，令和4年7月）より引用。）</p> |
| 会長 | <p>施設の換気やエアロゾル対策は大変重要な視点です。感染症対策協議会としても検討し様々な研究につなげることが必要です。</p> <p>委員の先生方にはさらにご意見を頂戴したいと思います。</p> |
| 遠藤委員 | <p>事務局から説明があった資料5大項目2番に「正しい知識の普及と情報の提供」という記載があります。新型コロナの流行時、仙台市と週1回、市民向けの情報をホームページ上で公開しました。しかし多くの市民にいきわたったかという疑問があります。</p> <p>今回のパブリックコメントでは、どのような方法であればより多くの市民に情報が行きわたるかについても意見を募集していただきたい。</p> |
| 会長 | <p>市民に正しい知識をどのように周知するか、是非市においても検討していただきたい。スマホのプッシュ通知のように、市民がよく利用する方法が望ましいと思います。</p> <p>今回、看護師の皆さんは入院や外来の対応で大変な苦労をされたと思います。看護協会から何かありますか。</p> |
| 狩野委員 | <p>看護協会の狩野と申します。</p> <p>現場の看護師や医師は普段、スタンダードプリコーション※2を徹底しています。しかし今回の対応では、看護師の中でも得意な方、不得手な方がいることが明確になりました。</p> <p>看護協会としましても、これを機に改めてスタンダードプリコーションを周知したいと考えています。また、スタンダードプリコーションは、医療従事者のみならず施設関係者にとっても重要です。</p> <p>※2 スタンダードプリコーション（standard precautions, 標準予防策）…感染対策の基本として、すべての血液、体液、分泌物（喀痰等）、嘔吐物、排泄物、創傷皮膚、粘膜等は感染源となり、感染する危険性があるものとして取り扱うという考え方。（厚生労働省 HP より引用。）</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>感染症の特性や適切な防護服の情報は早期に望まれます。PPE※3や物資も必要です。スタンダードプリコーションについては、看護師の中でも色々とらえ方があるということでした。</p> <p>今回の対応では、施設は独自に感染対策を徹底して、入所中の高齢者や障害者を必死に守ってきました。レジリエンス※4が蓄積されており感</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>銘を受けております。今後、医療側も専門家として施設へ関わるのが大事です。</p> <p>薬剤師会、男澤先生からはどうですか。</p> <p>※³PPE (personal protective equipment, 個人用防護具) …血液や体液などに含まれる病原体から保護するためのもの。主なPPEとしてガウン、手袋、マスク、フェイスシールド、ゴーグルなど。</p> <p>※⁴レジリエンス (resilience) …屈せず、立直り、乗り越えること。(厚生労働省HPより引用。)</p> |
| 男澤委員 | <p>仙台市薬剤師会は主に保険薬局の薬剤師が多く所属しており、日々病院に来る患者、通院される患者を目の前にしています。</p> <p>コロナが流行し始めた頃、患者へどのように予防の話をすべきか薬局の体制を検討していました。もともと賀来先生(賀来 満夫, 東北医科大学医学部感染症教室 特任教授)のご指導の中で、感染症初期予防のワーキンググループがありました。マスクや手洗いなど、初期予防の情報をいただいていた。ワーキンググループを中心に、多くの会員と話をしながら、基本は触らないという対応をしていました。</p> <p>正しい知識を早く市民に届けることが大事です。患者に薬をお渡しする際にお話ができるので、このような場で伝えるべき情報を会員に届け、会員がその情報を患者に届ける。今後も継続することが大事です。</p> <p>どのような感染症でも予防の観点は重要です。病院内での対策は別かもしれませんが、仙台市薬剤師会は予防の観点で努めていきたいです。</p> |
| 会長 | <p>病院の薬剤師も患者に服薬指導をしますか。</p> |
| 男澤委員 | <p>病棟を回り服薬指導をすることがあると思います。ただ、病院は環境的に重症の患者が多く、既に感染対策を徹底している部分が多いと思います。その点、保険薬局の薬剤師は、軽症の患者相手が多いため、その方々に予防法をお話しできればと思います。</p> |
| 会長 | <p>今回、オンライン診療、電話診療が認められました。患者と接触しないで済む方法を考えないといけないですね。</p> |
| 男澤委員 | <p>感染流行後、オンラインや電話での対応が患者より求められました。会長がおっしゃるようこれから普及すると思います。どちらにしても日ごろのコミュニケーションは大事です。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>一人ひとりにお伺いします。花岡先生はいかがですか。</p> |
| 花岡委員 | <p>新たな感染症に対し、我々歯科医が最初に手を挙げ行動することは難しいものです。今回のコロナ対応では、医師会、薬剤師会と協働しワクチン接種を行いました。</p> <p>呼吸器感染症、しかも飛沫感染であるため、器具の使いまわしをかな</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>りたたかれた時期がありました。我々歯科医は、スタンダードプリコーションを徹底的に行いました。それが功を奏し、歯科医のクラスターということはあまり聞いておりません。我々は歯を削るたびに飛沫を浴びていますが、患者から感染したという報告も聞いておりません。それが何を意味するかは今後の検討です。</p> <p>患者はコロナ禍でも歯医者に来てくれました。我々は医療情報を発信できる身近な立場ではないかと思えます。感染症の知識や、今起きていることを伝える情報発信の場になったと考えています。</p> <p>課題として、自宅療養や療養支援を受けている患者が、歯が痛くなった際にどこも受診できないという事態がありました。頓服薬で我慢してもらった。今後、受診できる体制整備が必要と思えます。</p> <p>いずれにしても、歯科診療所は正しい知識を情報発信する場として、患者との橋渡しになりうる機関だと感じています。</p> |
| 会長 | ありがとうございます。歯科の先生方が一番危ないと心配しておりました。感染される先生はほとんどいなかったのですか。 |
| 花岡委員 | 今回に関していえば、スタンダードプリコーションが功を奏したと考えております。これからの検証だと思えますが、眼鏡とグローブは使用後確実に滅菌していたはずですが、防護服を着てまでの対応はありませんでした。 |
| 会長 | 歯科診療所の換気はどうですか。 |
| 花岡委員 | 私のところはほぼ窓全開です。冬は閉めたり開けたり繰り返しです。密閉空間の歯医者はありません。都会の東京の方であればビルテナントが多いかもしれない。こちらは一戸建てが多く、窓の開け閉めや換気がやりやすい。 |
| 会長 | <p>ありがとうございます。参考になりました。</p> <p>市立病院八田先生、市立病院はコロナ対策で大変な苦労をされました。この会議でやるべき仕事、次の感染症にどう備えるべきかご意見お願いします。</p> |
| 八田委員 | <p>市立病院の八田です。</p> <p>仙台市感染症予防計画、平時における対応も新興感染症への対応も盛り込んでおり、総合的な内容で良くできていると思えます。今後、パブリックコメントを通じて、内容を充実していただければと思います。</p> <p>今回のコロナ対応では様々な課題がありました。その中でも、保健所とのやり取りで感じたのは、紙が多いということです。これは保健所もお感じになったと思えます。計画案にも ICT を活用との記載がありますので、業務を効率的に進める上でも課題かと思えます。</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>その関係でお尋ねします。資料5のⅢの2の検査の数値目標に関してです。コロナ初期は疑い例も含め、検査を受入れざるを得ませんでした。また、外部からの問い合わせも多く大変な時期でした。その中でも紙のやり取りが我々としてはつらかった。仙台市に行政検査として検体を送る際も紙ベース。届出をFAXし検査依頼用紙を紙で書き、検体と一緒に渡す。そこを省力化できると大変うれしい。</p> <p>というのも、感染症以外の先生が当直したとき、対応に慣れておらず、どこに用紙があるのか、何を記載するかなどが分からない。その都度、私や担当の人が呼ばれて対応しないといけない。紙以外の方法で省力化し、検査依頼ができるようになると望ましいです。以上です。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>DXに関して私たち診療所から申しますと、昨年の夏、発生届の限定化に伴いみやぎ電子申請サービスが使われました。これは、帰宅後に自分のスマホから患者数を入力すればよく、大変省力化につながりました。このような工夫は平時から考えなければなりません。是非、情報集めをしていただきたい。</p> <p>医師会の反省として、市民の皆様に、発熱しているのであれば来ないでくれと医療機関として衝撃的な発言をしてしまったことです。本来、発熱した場合には医療機関が相談先です。医療機関が来るなど拒否してしまったことに心が痛みます。今後はそのようなことがないようにしたい。</p> <p>次に来る感染症の性質によりますが、例えばインフルエンザであれば、2009年の新型インフルエンザのときに梅原市長がタミフルを配ってくれました。これに我々は勇気をもらいました。呼吸器感染症で気を付けるべきは、インフルエンザウイルスかコロナウイルスかと思います。どちらも現在は薬があります。新しいウイルスに薬が効くかどうかは別ですが、効くという情報があり、手元に薬があれば、診療対応する所も増えるかと思います。</p> <p>一通り委員の先生から、ご意見を頂戴しました。これだけは言っておきたいことがございましたら。</p> |
| 副会長 (青柳委員) | <p>医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、今回の新型コロナで課題になったところ、あるいは進んだところが見えてきたと思います。教訓を次に生かすため、どこをより強化すべきか、各視点から聴取し素案に反映していただきたい。</p> |
| 会長 | <p>この協議会に介護系の委員は入れなくてよいのでしょうか。今回、介護の方々には苦勞をかけてしまったので。途中からでも入れていただきたい</p> |

| | |
|----------------|--|
| | <p>い。</p> <p>事務局側から質問や意見がありましたらお伺いします。</p> |
| 事務局 (小松副所長) | <p>事務局です。保健所副所長の小松と申します。ご意見いただき本当にありがとうございます。</p> <p>DXにつきまして、発生届を受理する区役所で発生届出のFAXが止まらない状態となりました。次第に届出内容をシステムへ入力する先生方が増え、発生届の簡略化も相まって状況は落ち着きました。また、八田先生がおっしゃる通り、発生届のみならず身近なところでDX化がなされておりません。DXは平時から取り組むべき課題と感じます。</p> <p>さらに、皆様がおっしゃった正しい知識と情報です。こちらも、平時から皆様と情報交換できる体制が必要です。情報交換や訓練などを通じ、改善点を探ることが重要です。</p> <p>本日、皆様から貴重なご意見いただきました。どのような計画にすべきか今後も引き続き議論しますが、計画を作って終わりではございません。計画をもとにどのような連携をしていくか。次の感染に向けて皆様と引き続き協力し取り組みたいと考えております。</p> |
| 会長 | <p>この会は今後どのくらいの頻度で、開催する予定ですか。</p> |
| 事務局 (小松副所長) | <p>今年度は、予防計画の策定のため年度内にもう一度開催予定です。その後、年に何回とは決めておりませんが、計画を運用するなかで必要に応じ複数回開催していきたいと考えております。</p> |
| 会長 | <p>新興感染症を想定した訓練はありますか。</p> |
| 事務局 (小松副所長) | <p>様々な訓練を想定しております。感染症患者への対応訓練、検体の採取と検査機関への搬送訓練、医療機関における初期対応の訓練。どのような訓練が必要か、改めてこの会を通じて皆様のご意見等をいただきたい。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。委員の先生方から事務局へ意見、要望はありますか。この会をこんな風にしていきたいというのがありましたら、加えていただきたいですけれども。よろしいですか。</p> <p>丁度時間になりましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。</p> <p>【事務局から事務連絡】</p> <p>それでは、これを持ちまして令和5年度第1回仙台市感染症対策協議会を終了いたします。委員の先生方、本日はどうもありがとうございました。</p> |

本議事録について、令和5年11月6日に開催した令和5年度第1回仙台市感染症対策協
議会の議事内容と相違ないことを確認しました。

令和 年 月 日

議事録署名 _____ 印